

ICAS 活動予定

◇第3回 いばらき地域サステナ・ワークショップ◇

日時：9月26日(金) 13:00~15:30
場所：理学部K棟1階インタビュースタジオ
テーマ：「見える化の実践と効果」

お問い合わせは ICAS 事務局・植松まで
TEL&FAX:029-228-8787
m-uematsu@mx.ibaraki.ac.jp

◇プログラム◇

第1部 各団体の活動報告 (予定)

- (1) 循環型社会の提案と商店街の活性化 (NPO 法人 笠間ツクル事を考える会)
- (2) ガールスカウトのエコ・キャンプ実践 (城里町商工会)
- (3) チャレンジデーの効果 (エネルギーを考える会：ひまわり 荒木昌三)
- (4) 都道府県別のCO₂排出状況 (ICAS特任研究員 長谷川良二)
- (5) 二酸化炭素モニタリング結果 (茨城大学大学院理工学研究科 齋藤修)

(順不同・敬称略)

第2部 今後の活動方針の検討

情報共有・ネットワーク構築、環境戦略検討

☆ ISCIU4(第4回茨城大学国際学生会議)の開催 ☆

ISCIUとは茨城大学国際学生会議の略で、日本で唯一の学生主体の国際会議です。今年度はISCIU4(第4回茨城大学国際学生会議)が11月1・2日に茨城県立図書館で開催されます。今回は「イノベーション(今後の人間の生活のための技術的革新)」をテーマに国内外の学生に論文投稿を呼びかけ、学生による学生のための国際会議として研究発表の場を提供します。今回は規模を拡大し、100人以上の集客を目指しています。90名以上の論文投稿者には海外からの学生の他に高校生も含まれており、新たな試みとして注目を集めています。特別講演ゲストには、人間の身体機能を拡張・増幅させるロボットスーツHALを開発した筑波大学の山海教授やICAS特任教授でIPCCにも参加しているジョン・ハイ教授らも招く予定です。世界の最先端を共有する場として皆様の参加を心よりお待ちしております。



☆ 霞ヶ浦研究会年会・開催のお知らせ ☆

—ICAS教員の方々の活動についてお知らせします。—
日時：9月28日(日) 13時から17時
場所：茨城大学農学部 こびし会館
1. 特別講演「霞ヶ浦(西浦)における三次元水質変動シミュレーション」
中曽根英雄(茨城大学農学部)
2. 会員研究発表
*霞ヶ浦関連の様々な研究成果が発表される予定です。

ICAS/IR3S Calendar

4月	新年度スタート 4/7~ ICAS 研究発表会・開始 毎週月曜日 14:00~ 4/17・18 IPCC-IR3S サイエンス・シンポジウム	9月	9/12・13 IR3S 後援：日本学術会議(SCJ)国際会議 9/24 IR3S-ICB 2008 ジョイント・シンポジウム 9/26 第3回いばらき地域サステナワークショップ 9/28 霞ヶ浦研究会年会
		10月	社会連携事業シンポジウム(水戸)
5月	5/19 第1回 ICAS サステナフォーラム	11月	11/1・2 第4回茨城大学国際学生会議 11/28・29 第2回日本ベトナム・シンポジウム(ハノイ)
6月	6/4 第2回いばらき地域サステナワークショップ 6/14 第1回集中講義「サステナビリティ学入門」 6/28 第2回集中講義「サステナビリティ学入門」	12月	第2回国際教育シンポジウム
		1月	
7月	7/9 第2回 ICAS サステナフォーラム 7/12 第3回集中講義「サステナビリティ学入門」	2月	IR3S 公開シンポジウム アジア・メガデルタ・シンポジウム "Cities at Risk" (バンコク)
		3月	3/2~4 IR3S 共通コア科目「サステナビリティ学最前線」
8月	8/9~22 IPoS2008 開催 (タイ)		

*網掛けは継続される企画です

ICASの予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで icas@mx.ibaraki.ac.jp

ICAS 活動報告

◆平成 20 年度 第 2 回サステナフォーラム◆

7月9日(水)に水戸キャンパス理学部インタビュースタジオにて、第2回サステナフォーラム「地域に根ざした環境共生社会と農業—アメリカでの環境保全型農業の展開から考える—」が開催されました。本フォーラムでは、地球規模での気候変動問題に対する農業分野からのアプローチを Upendra M. Sainju 博士(アメリカ農務省 農業研究サービス)、村本穰司博士(カルフォルニア大学サンタクルーズ校)、小松崎将一准教授(茨城大学農学部、茨城大学 ICAS)の3名の講演者に話題提供していただきました。

そこでは、非再生可能な資源に依存するシステムではなく、自然を生かしながら守る「持続的な近代化」に切り替えていく必要性をアメリカでの環境保全型農業や有機農業の展開、茨城での取り組み事例を通して講演されました。総合討論では、教員、学生そして一般参加者からの質問や意見が交わされ、これからの農業の在り方に対して幅広い議論が行われました。



◇大学院サステナビリティ学教育プログラム◇

2009年度より、茨城大学大学院サステナビリティ学教育プログラムが開始されます。本プログラムは、持続可能な人類社会を構築するために地域及び国際的に活躍できるサステナビリティ学の専門家の育成を目指す大学院横断型修士課程プログラムです。IR3S(サステナビリティ学研究連携機構)の参加大学との協力や環境省「アジア環境人材育成イニシアティブ(ELIAS)」の支援を受けて運営されます。

ICASのメンバーは本プログラムの運営の中心的な役割を担っています。研究面だけでなく、教育面からもサステナビリティ学の展開が期待されています。

本プログラムのパンフレットが今年10月頃に配布予定ですので、サステナビリティに興味のある人や大学院進学を希望する人は是非ご一読下さい。

ICAS メンバー紹介

金 鎮英

(キム ジンヨン)

ICAS 特任研究員
かに座・A型



韓国ソウル生まれで、修士課程修了後はソウル市政開発研究院で3年間都市水害防止に関する研究を行ってきました。そんな中、突然日本への留学を決断し、向こう見ずに三十歳を超えたところで、家族と一緒に日本に参りました。いろいろ苦労もしましたが、今、振り返ってみると知らなかった分野への研究、より幅広い人生経験などができてよかったと思っています。ICASが縁になって日本で過ごす時間が延びた分、ICASに貢献しながら自分にとってもいい勉強を積み重ねていけるように頑張りたいと思っています。

◇最近、ICASの研究はどうなっているの?◇

— Part 2 —

ICASではメンバーが各専門分野において気候変動による影響やその適応策に関する研究に従事する他、異分野のメンバー同士による共同研究にも取り組んでいます。現在は、温暖化による浸水被害の影響予測や、バイオ燃料の開発や普及に関する研究を工学、農学、経済学分野のメンバーが手を組んで行っており、文理の枠を超えた共同研究が活発化しつつあります。本格的な研究の場で分野横断的なICASの強みが大きく発揮される予感がします。

そしてICASは研究に専念するだけでなく、その成果を教育や地域貢献などの形で可能な限り還元させることにも心がけています。前号でも紹介した書籍「サステナビリティ学をつくる」の刊行や集中講義「サステナビリティ学入門」の開講もその一例です。また最近では、サステナフォーラムや地域サステナ・ワークショップの外部の方からの問い合わせも多く、地域密着型の活動にもますます力を入れていこうと意気込んでいます。

今後もサステナビリティに関して、研究、教育、地域貢献のいずれも分野においてもICASは全力で取り組んでいきます。



ICAS on MEDIA

==== 茨城新聞好評連載中 ====

連載はついに2年目に突入!! 8月5日(火)からはロゴのデザインもリニューアルされました。現在は「温暖化と自然災害」シリーズが連載中です。

Editor's Note

あっという間に夏が過ぎていきました。我が家のゴーヤは花が咲くだけで、ちっとも実がなりません。肥料が足りないのでしょうか?

さて、ICASでは秋に向けて様々なワークショップや、シンポジウムを企画中で、9月下旬より海外からの教授も来日します。今後も充実した活動を展開していきたいと考えておりますのでよろしくご留意致します。

また、ICAS Newsに関するご意見・ご感想もお待ちしております。
m-uematsu@mx.ibaraki.ac.jpまでよろしくご留意致します。